

## 競輪事業について

### ◎災害等で小松島競輪場が使えない場合に、なぜ他の競輪場を小松島競輪として使う必要があるのか。

<回答>

東日本大震災では、企業や産業も大きな被害を受けた結果、工場の被災や部品不足により国内外で生産停止や特定製品の品薄が発生しました。競輪においても、茨城県の取手競輪場が被災し、松戸競輪場を借り上げて法令等で定められている所定の日数の開催を行った経緯もあります。

こうした状況を受けて、本県においても、近いうちの発生が想定される南海トラフ巨大地震など緊急事態の発生に備えて、企業においては、事業継続計画（BCP）を策定する動きが進んでいますが、このたびの他の競輪場を借り上げて小松島競輪を開催するという点についても、事業として行っている小松島競輪の緊急事態が発生した場合の備えの一つの策として、あらかじめ条例を改正し、緊急事態が発生した場合であっても所定の日数の開催が行えるように備えるものであります。

レジャーとしての側面の強い競輪を、災害等が発生し小松島競輪場が使用できない場合にも開催するという点で、ご批判があることは理解いたしますが、その一方で、選手をはじめ小松島競輪により生計を立てている者がいることから、まずは最優先で小松島市の復興にとり組み、状況が落ち着いた段階で競輪を開催したいと考えております。

### ◎競輪事業が赤字になった時は、競輪の特別会計へ一般会計から繰り入れしているのか。

<回答>

競輪事業が赤字になっても市税等の歳入（収入）から編成されている一般会計からの繰り入れはありません。競輪事業に赤字が発生した場合は翌年度の競輪事業収入から補填することで対応しています。

逆に、競輪事業は収益事業ということで、その目的の一つに、地方財政の健全化が掲げられていることから、これまでに一般会計に対し64億3千万円余りを繰り出ししています。

### ◎サテライト鴨島への投資は5年間で回収できるのか。

<回答>

このたびのサテライト鴨島への投資は、映像システムのHD化に伴うものですが、当初、サテライト鴨島へは小松島競輪より専用回線を通して様々な情報が送られていました。機器の更新に伴い、そうした情報が段階的に東京にあるシステムから直接サテライト鴨島に送られるようになってきたのですが、今回の更新に伴い、小松島競輪場とサテライト鴨島の間を結ぶ専用回線が不要となり、これに要していた費用を今回の投資費用に充てる事で、5年で回収できると試算したものです。

この投資に伴い、サテライト鴨島において独自の販売も可能になることから、さらに短期間で投資分の回収は可能になると考えております。

今回の映像システムの更新により、お客様からは画面がはっきりして見やすくなったという声も頂戴しており、お客様の満足度にも貢献できたものと考えております。

### ◎競輪事業の将来に向けてのビジョンをはっきり示すべきである。

<回答>

新聞などでも施設改修を含めた今後の事業についてのご質問をいただいておりますが、競輪局としましては、現在、平成27年度までの5カ年にわたり、赤字の大きな要因である普通競輪の開催日数削減や競輪振興法人交付金の猶予特例制度が適用される収支改善計画にとり組んでいます。この計画に従って、できることから順に取り組んできた結果、平成24年度決算では累積赤字を解消し黒字とすることができました。これには、猶予されている交付金が計上されておらず、まだまだ厳しい事業環境にあることは、十分認識しておりますが、一方で職員一丸となって経費の見直しや売上げの拡大など事業改善に取り組んだ成果でもあると考えております。こうしたことより、現状としましては、まずは残り2年となった収支改善計画に全力で取り組むことで、より一層の財務体質の強化を図り、ひいては3月の定例会議における産業建設委員会において市長が表明しましたように、今後の事業継続につなげていきたいと考えております。

## ◎どうして競輪事業の収入が減ったのか。

<回答>

競輪における全国的な売り上げは平成3年度の1兆9,553億円をピークに年々減少しており、平成22年度には6,350億円と平成3年度のおよそ3分の1となり、以後も平成23年度6,229億円、平成24年度6,091億円と減少し続けています。

競輪事業の売り上げの減少理由は、様々な要因があると考えられますが、主なものとしましては、バブル経済の崩壊やリーマンショックの影響など経済的な動向によるものや、娯楽の多様化に伴う競輪ファンの減少などが考えられます。さらに競輪が持つ特徴として、選手の特徴や競輪場のバンクの特性など経験が有利に働く点が数多くあり、他の公営競技である競馬や競艇に比べ、初心者にとってはなじみにくいということも、ファンの新陳代謝が図られにくい要因であると考えます。

こうしたことから、競輪局としましては、競輪に親しみを持ってもらうため、毎月イベントを行い、まずは競輪場への来場の動機付けを行い、さらにはそのようにしてご来場いただきました初心者の方に対してレースの見方や車券の購入方法などのガイダンスが行えるような体制を整備してお客様の新規確保につなげる努力をしております。